



ゆりかご 園だより

2025.8.1

暑い日が続いておりますが、、

体調など崩しておられないでしょうか。この時期は国や市などの行政機関からも毎日のように熱中症の注意喚起文書が送られてきます。私たち保育園で働く大人は自分自身のことよりも目の前の子どもたちを優先するあまり、ついつい頑張ってしまうがちなので、職

員の間でも勤務中の水分補給をしっかりと行って、自分たちの体調管理を行うことが子どもたちを熱中症の危険から守っていくことにつながると確認しています。

また、本年度は設備面からの熱中症対策としてプールの上にサンシェードを設置しました。元々はひまわりぐみの室内温度が上がるのを防ぐための対策を検討している中で、園庭工事などのお仕事をされている2歳児クラスのお父さんからアイデアをもらって実現することができました。室温上昇を防ぐ効果の他にも、子どもたちがプール遊びの際に直射日光を受けないことや、プールの監視係が日陰にいられるというメリットもあり、大いに活躍をしてくれています。大人の体調管理にも気をつけながら、子どもたちは水あそびやプールをたっぴりと楽しんでます。

今後も折にふれて書いていきたいと思います、、



降園時の玄関での様子は、いろいろとドラマがあります。大体の子は笑顔でバイバイと手を振って帰っていくのですが、時々そうでないこともあります。

先日は1歳児クラスのM・Hくんがお母さんに対して全力で自分の思いをぶつけていました。その日は、大泣きしながらお母さんに抱えられて玄関に出てきたHくん。お母さんが靴を履かせようといったん座らせると、左右の靴を手に取り遠くのほうへポイポイ。そして大の字になって床に寝そべり「オレは帰らないから」の徹底抗戦ポーズ。原因はどうやら夕方履いていた某キャラクターのついた保育園の布パンツだったようで、お迎えの前までそれを履いてご満悦だったHくんでしたが、お母さんが迎えにきて紙パンツに履き替えたことが、どうやら気に入らなかったみたいです。気がつけば先生5人と3家庭ほどの人ばかりができ、みんなが順番にHくんのそばに行って話を聞いては代案を出すのですが、Hくんは一向に受け入れてくれません。最後は「じゃあ紙パンツの上からパンツはくかい？」というお母さんの言葉で一瞬にして表情が和らぐHくん。自分でズボンを脱いでそのパンツをはき、さらにTシャツを着ているとパンツが見えなくなるのでTシャツも脱ぎ捨ててパンツがちゃんと見えるようになると、大好きなお母さんに抱っこされて嬉しそうに帰っていきました。

このHくんの行動は、1歳の時期に芽生えてくる姿です。自分で決めたい、自分を尊重してほしいという気持ちを、自分が持っている様々な手段で伝えようとするHくんの姿はとても素敵です。そしてそれに対するお母さんの受け止め、周りの親たちのあたたかいまなざし、先生たちの寄り添いなども含め、やっぱり保育はみんなで作るものなんだなぁと改めて感じる場面でした。こうした日常を今後もみんなで守っていきたいですね。※今回Mさんのご了承を頂きエピソードを掲載させて頂きました。

